

りゅうおう

議会だより

No.184

2018年8月1日
滋賀県竜王町議会

真夏の太陽に
負けない!!

関連記事…P12

定例会

P 2

特殊建築物の定期調査

委員会

P 3

公共交通の利用促進事業

一般質問

P 4～

子ども食堂の必要性は

追 跡

P11

町道殿山線道路改築は

シリーズ

P12

いきいき人生

定例会で何が決まったの？

6月定例会は、6月1日から19日までの会期で開催され、条例関係4議案、平成30年度一般会計補正予算1議案、一部事務組合関係1議案の合計6議案が提案され、すべて全員賛成で原案のとおり承認・可決しました。

一般会計補正予算の一部の事業を紹介します。

竜王町一般会計補正予算

- ・平成30年度当初予算
55億2,300万円
- ・今回の補正予算額
3,316万円

補正予算の主な事業

橋梁長寿命化修繕工事

増額 493万円



修繕工事が実施される竜王大橋

問 竜王大橋の修繕の見通しは。

答 現在の計画としては、主として橋桁の塗装の塗り替え等があり、平成32年度の工事完了を目標としている。

小中学校の定期調査報告で指摘があった箇所の修繕

新規 450万円



指摘のあった小学校の物置

問 小中学校の特殊建築物の定期調査報告は、法に基づき実施されている。県が指摘しているすべてを直すことができる予算なのか。

答 指摘のあったすべてを直す予算である。

町道道路改良・舗装他工事

増額 583万円



町道東西線の川守地先交差点から西方向へ100mの区間を舗装予定

特殊建築物とは

特殊な用途を持つ建築物のことで、多くの人が集う建築物（公民館、学校など）や衛生上、防火上、特に規制すべき建築物などがこれに当たる。

総務産業建設常任委員会

公共交通利用促進事業の中間報告

子育て世代の負担軽減等を目的として通学定期の半額補助、夜間特別便の運行で送迎支援は好評に展開中

◆利用状況

- 通学定期半額補助 申請者53人（5月）
⇒ 前年5月の定期利用者数より26人増加
- 夜間特別便 利用者延106人（4～5月）

- 問** 通学時間帯にバスの運行が少ない。
運行ダイヤの変更は検討できないのか。
- 答** 乗降調査をし、調査研究を進める。



夜間特別便の乗り場

防災情報システムの整備概要

現地にてデジタル同報系実験試験局等の機材を使用し電波伝搬調査の実施



町内全域で受信可能となるよう整備を進める

◆今後のスケジュール

平成30年度	実施設計
平成31年度～32年度	システムの整備
平成33年度	運用開始

- 問** システム整備に係る財源は。
- 答** 緊急防災・減災事業債の起債で対応する。



電波伝搬調査(西川)

地域活性化特別委員会

小口市街化区域の住宅整備

◆住宅開発のスケジュール

造成工事	6月完了
建築工事（2棟分）	7月～9月
入居開始予定	10月～



住宅イメージ

集合住宅4棟の整備が予定されている

教育民生常任委員会

町内の介護保険の状況

- 65歳以上の高齢者 3,182人
(平成30年4月時点 高齢化率 26.3%)
- 要介護・要支援の認定者 534人
(平成29年12月時点 認定率 約16%)

利用人数

施設サービス	91人
在宅サービス	336人
地域密着型サービス	103人

介護保険サービスの提供事業所

- 町内事業所 13法人、21施設



ケアセンター蒲生野へ
視察に行きました。

町政 ここを聞く!

6月定例会では10議員が
15問の一般質問を行いました。

ページ	質問者	質問事項
5	山田 義明	学校園の危機管理体制の強化は
	松浦 博	滋賀竜王工業団地の進捗状況は
6	岡山 富男	竜王にスマートインターを
	貴多 正幸	子ども食堂の必要性は
7	森山 敏夫	空き家対策は
		上水道の整備事業は
8	内山 英作	地域支え合いしくみづくりモデル事業の今後は
		新川決壊箇所の復旧工事は
		町の人口、11%減少、どうするの ※
		地域福祉計画で何をめざすのか ※
9	若井 猛志	TPP11での竜王農業への影響は
	小西 久次	竜王町産の農産物を学校給食に
10	森島 芳男	高齢者と同居の家族に支援を
		日野川流域の点検が必要ではないか
11	古株 克彦	通学路の安全とバス停留所の整備は

※ 紙面の都合上、掲載しておりません。

一般質問って?

町の行政全般について
議員が町長をはじめとして
担当部局に疑問点を質したり、
見解などを尋ねたりするもので、
毎定例会で行われるよ



そうだ!! 傍聴に行こう!

議会ではどんな政策が審議されているか、あるいは自分が選んだ議員がどのような活動をしているかなど、傍聴は議会の動きに触れることのできる身近な方法です。

議会事務局（☎58-3713）にお問い合わせ下さい。

次回の一般質問は9月20日(木)予定



山田 義明 議員

問 危機管理にかかわる教職員の役割分担や個別事項における責任の所在が

答 近年、中学校での灯油流出事故、教員の飲酒運転や未乗車の公用車使用などトラブルが絶えない。事ある毎に対策は取られているが、学校園での危機管理体制には、多くの問題が隠れている。今後の学校園での危機管理体制は。

問 学校園の危機管理体制の強化は

答 教育委員会と学校園のダブルチェック機能で充実していく



西小学校における不審者対応訓練の様子

明確でない部分がある。また、強い危機管理意識に基づく実効性のある訓練や研修については課題があることから、各校園に対して校務分掌の見直しを指示し、「見落とし」のない校内管理体制の整備を図る。

なお、施設等については、経年劣化や自然災害による危険対策として修繕や改善、教職員等による点検異常箇所への迅速な対応、高度または専門的な操作や管理の必要なものは業務委託による点検と管理で対応している。教職員や専門家による安全点検と併せて、児童生徒や保護者からも危険箇所の意見を聞き、多様な視点から安全確保に努める。

問 滋賀竜王工業団地の進捗状況は

答 7区画の内、3区画の進出が決定



松浦 博 議員

問 ①企業誘致対策は。②工業団地管理組合の体制と業務内容は。③進出企業からの居住環境整備や交通インフラに関する要望は。④国道477号歩道が一部未完成だが、その後の進捗は。⑤今後の開発に伴う地元への説明は。

答 ①3区画は進出企業が決定した。滋賀県、

土地開発公社と連携し、早期の誘致実現に向けアプローチを続けている。

②進出企業3社、滋賀県、公社、本町の6者を会員として企業協議会が設置された。協議会では、工業団地内の維持管理と連絡調整を行う。③企業からは、小口地先の集



企業誘致が進む現在の工業団地

合住宅地から工業団地までの照明灯の設置、路線バスの増便の要望がある。④未完成の区間は、地権者の所在が不明の土地があるため、法務局等と相談し、地権者の特定に努めている。⑤本町、進出企業、地元自治会による情報交換の場を設置する。



岡山 富男 議員

問 竜王にスマートインターを

答 調査・研究する

能強化と分散化による広域的な産業振興と物流輸送の効率化にも努める必要がある。

その手法の一つとしてスマートインターの設置を国が推進している。計画に当たっては、周辺の土地利用や道路網の現状把握、事業効果と関連経費の調査・研究を行い、利用者と地域の声を聞いた中で進めていくことが大切である。

問 滋賀竜王工業団地や山面工業団地への工場進出等において、竜王インターの交通量が増えると考えられる。また、町内での交通渋滞の発生が、予想される。

答 竜王インターの交通量の分散化には、竜王スマートインターが必要ではないか。

答 企業誘致等が進むことにより、インターへの交通量の増加が見込まれるが、竜王インターの現状での機能強化は困難である。

対応としては、インターへの取り付け道路の機



1日あたり約15,000台の利用がある竜王IC



貴多 正幸 議員

問 子ども食堂の必要性は

答 重要な取組と考えている

問 「子ども食堂」の必要性をどのように考えているのか。また、住民ニーズの把握は。

答 滋賀の縁創造実践センターは、貧困家庭や孤食の子どもに食事を提供し、安心して過ごせる居場所づくりとして子ども食堂のモデル事業をスタートし、5年目を迎えられた。

現在、子どもから高齢者までが集う場として発展し、地域づくりの一環として誰でも参加できる場として、定着し始めている。

この地域の垣根のない集まりが、寂しさやしんどさを抱える子ども



地域で実施されている子ども食堂

達にとって安心できる場になっており、とても重要な取り組みであると考えている。

ニーズは、「子どもの最善の利益」が守られているか、の視点で要保護児童対策地域協議会の情報や、その他子育て相談やひとり親家庭の面談等から把握している。

問 空き家対策は

答 空き家、空き区画は
有効活用と適切な管理が重要



森山 敏夫 議員



地域の住民が集う場所の一つとして活用されている空き家

問 町内の空き家は、新たな救済制度を考えるなどの具体的な方策が必要と思うが町の見解は。

答 平成29年度末で、町内の空き家は151戸、空き区画は267区画で28年度より空き区画は減少しているが、空き家は増加傾向にある。

空き家の利活用を進めるために助成事業の活用を促すなど積極的な情報提供に努める。
また、空き家や空き区画は、有効活用と適切な管理が重要となることから、他の自治体の取組も参考にしながら所有者の意向を尊重しつつ取組を進める。

問 上水道の整備事業は

答 「水道事業ビジョン」の実現に向け

努力する

問 水道管の法定耐用年数は40年だが実質的には1・5倍の60年を更新の目安としている。毎年老朽化する配管の更新作業は予算面から効果的には進んでいない。
万一の場合の被害を最小限に留めるため、バイパス等を検討する必要があるのか。水道事業における整備の方向性は。

答 本町では、日々の安全で安定した水道水の供給に努めているが、人口減少等の影響もあり、水道事業そのものが厳しい局面を迎えている。このため、中長期的視点で「竜王町水道事業ビジョン」を策定し、平成37年度までの計画期間内で具

体的な施策を進める。
バイパス整備は重要な対策ではあるが、投資効果や技術的な側面からも課題が多く、研究課題としたい。今後「水道事業ビジョン」の実現に向けて
努力し、広域化や共同化などの動きを注視しながら、持続可能で信頼される水道経営に努める。



基幹管路布設替工事（橋本地先）



内山 英作 議員

問 地域支え合いしくみづくり モデル事業の今後は

答 全自治会での取り組みを支援する

答 昨年度、林と鶴川自治会がモデル事業を実施された。年度末の2月に報告会を開催し、2自治

問 平成29年度から5年後を見据えた地域課題を洗い出し、持続可能な地域の支え合いで解決できるしくみづくりを検討する本モデル事業を始めた。今後、事業をどのようにに発展させるのか。

会の取り組みを事例集としてまとめ、各自治会に配布した。
今年度は、弓削と西川自治会から事業への申請がある。
モデル事業終了後の平成32年度以降は、「未来へつなぐまちづくり交付金」で継続できる制度設計としていので、全自治会で取り組んでもらえるよう支援していく。



モデル事業の報告会は22自治会(約100名)が参加した

問 ①現在の工事の進捗状況と完了予定時期は。
②決壊箇所以外での今後の台風の大雨や地震などに対する決壊対策は。

答 ①工法を変更して、6月末頃から鋼矢板^{こうやいた}締切工に着手し、ブロック積工、盛土工を行う予定。
また、完成予定時期は8月末である。
②決壊対策は、河川管理者が巡視点検や緊急度に応じて必要な修繕を行うなど、適正な維持管理に努められる。
新川の老朽化した護岸の更新を検討されており、今年度、現地測量と設計に着手する予定との確認をしている。

問 新川決壊箇所の復旧工事は

答 工法の変更で、8月末の完成予定



復旧を待つ新川の様子(5月24日撮影)



若井 猛志 議員

問 TPP11での竜王農業への影響は

答 影響額は、2億3千万円と試算



麦跡水田の飼料米作付けの様子

問

①輸入食料が増え、自給率が下がることは、命、環境、地域、国土維持に極めて悪影響を及ぼす。政府のTPP11の影響試算は、農産物についてどのようなものになっているか。

答

①TPP問題での関心が高い分野の一つが、農業への影響である。このうち米国の離脱後も離脱までに決定さ

②本町でも、米・麦・畜産は基幹産業として取り組まれているが、その影響は。

れていた農産物の関税の扱いは維持されているため、生産現場はもとより、国民が抱く不安・懸念は払拭されていない。
政府の試算については、616億円から1103億円と見込んでいる。
②本町における影響額は約2億3千万円と試算している。今後、国の対策を注視し農家の経営体質強化対策や、価格下落時の経営所得安定対策の実施に努めていく。

問 竜王町産の農産物を学校給食に

答 出荷組合を通じ生産者の増加を図る



小西 久次 議員



笑顔でいただくおいしいふるさと給食

問

①直営センター方式による学校給食を実施され、週4日のあったかごはんは子どもに好評である。竜王町産農産物の使用が以前と比べ少ないが、その現状と考え方は。

答

①竜王町産農産物の使用状況は、野菜・米の重量基準で平成29年

②魅力ある農業の創生事業に取り組みされているが、今後の学校給食に対する供給対応指導が必要ではないのか。

度52・9%、平成24年度は64・3%と5年間で10ポイント余りの減少である。特に玉ねぎ等の重量野菜において使用率が下がっている。「学校給食出荷組合」により入札参加されているが、高齢化等により年間を通じて安定的な量の確保が難しい。
②今後、農事組合法人にも野菜作付等育成強化の推進を図る。現行の学校給食出荷組合を通じて野菜等を供給する生産者の増加を図るなど様々な取り組みを進めていく。

問 高齢者と同居の家族に支援を

答 現在のところ難しい



森島 芳男 議員



日常生活の中で必要となる自動車

問 高齢者のおられる家庭に、高齢者を送迎するための軽自動車購入支援ができないか。

答 誰もが高齢者となっても、買い物や通院等、支障なく日常生活を送りたいものである。こういった願いを実現するため、高齢者送迎のための軽自

動車購入支援の制度化は対象者の選定基準が定めにくく、現在のところ難しいと考えている。
しかしながら、交通弱者といわれる高齢者の移動手段を構築し、あわせて高齢者の生活の質維持の一助となる事業を優先的に取り組みたいと考えている。

問 日野川流域の点検が必要ではないか

答 県が年間を通して点検している

問 日野川は、台風のたびに被害が発生している。日野川の現状は、雑木、雑草が大きくなり、増水すれば流れが悪くなる状態である。雨が多くなる前に点検し、流下を阻害している箇所を見つけ、対策をするべきではないか。
どの様に状況、状態を把握しているのか、また災害を未然に防ぐための対策をされているのか。

答 日野川の状況、状態は、年間を通して河川管理者や、県河川管理パートナーにより巡視点検が行われており、危険箇所の把握に努めてもらっている。

災害を未然に防ぐため流下能力を妨げている竹



川の中の雑木と雑草(日野川)

木等による増水の対策として、緊急性の高い箇所から順次伐採を実施されている。
本町としても、川の流下を阻害する竹木等への

対応を要望し、堤防強化事業も、早期に進めてもらうよう、要望していく。

問 通学路の安全と バス停留所の整備は

答 薬師地先県道

歩道拡幅の事業化進む



古株 克彦 議員



待機所の整備を待つバス停留所

問 ①通学路の安全確保について、県道綾戸東川線に続いて県道春日竜王線の薬師地先の見通しは。
②県道小口川守線の小口東バス停付近は、バスの乗降には手狭で安全が確保できていないが。

答 ①県道綾戸東川線の工事は、集落前の区間約150mが残っている。しかし、通学路として歩行者の安全確保が急務であることから、並行して県道春日竜王線の薬師地先の歩

道拡幅の事業化について方針が出た。
平成30年度は測量、設計が実施される。
②小口東バス停のある、県道小口川守線は道路幅が6mと狭く、近江八幡駅行きの乗降側に、歩道がない。
さらに、小口東バス停は、側溝に蓋を置き、その上にバス停を設置している状態である。
今後、早急に民家の生け垣の伐採とグレーチングの設置による待機所の整備やバス停の移動など関係者と協議し、対応を検討する。



追跡!!

あの質問は
その後どうなった??



用地取得部分の擁壁が撤去された

◎その後
30年度に東側残りの用地取得、31年度以降に東側工事西側用地の測量、用地取得を予定。

県道から町道に入りやすくなるんだね



問 山之上地先の町道殿山線改築に係る経過と今後の取り組みは。
答 180mの用地の用地測量を実施中で一部、用地の先行取得をする。

**町道殿山線道路改築は
どのようになったか**
総務産業建設常任委員会での質疑
(平成29年11月16日)

議員の質問に、町がその後どのように対応したかを追跡・検証してみました。

シリーズ いきいき人生

薬師在住
おがわ げん たろう
尾川 源太郎 さん

私にできる事を！

小学生と
水鉄砲作り



人生の第一ステージは、学校卒業後、大手電器メーカーに定年まで約40年勤めました。大半が外勤で家を空けて日本国内中を訪れ、組織人として多くの方々と親しく関わらせていただきました。片や家は、家事・育児は妻に頼りっきりで、自家米の生産も、稗ひえの方が上手に育ち四苦八苦いたしました。40歳過ぎには米作りから家庭菜園に特化！

60歳を目前に、第二の人生をいきいきスタートする

ための講座に参加しました。そこで出会った方々と共に、受講だけに終わらず、シニアの人生を今までの知識・経験・特技を活かした、自分達にできるお役立ちを社会に！と参加者で“竜王町シニアボランティア『菜の花グループ』”を立ち上げました。現在までメンバーに恵まれ今年で丸10年。はじめは、地域の方々ととの交流の場作りにと、自然水で作った挽き立てのドリップコーヒーサービス、次に妹背の里の日野川河川敷の草刈と活動をしました。その河川敷は、春は桜と菜の花でいっぱい！さらに子育て支援では、夏に竹樋たけどいで大掛かりな流しそうめん、竹細工教室、幼稚園餅つき大会、今ではあちこちからお誘いのコールがあり、多忙な日々を過ごしています。

今日まで様々な活動を通じて、人と人との関わり、そこからできる絆の大切さを学びました。

正に私の60歳は、縦から横への人間関係形成の大転換期でした。お陰様で、多くの方々に親しくしていただき、ありがたく思っています。これからも仲間と共に地域に役立てる私であり、グループでありたいと思いますのでよろしくお願いします。

訂正とおわび

議会だよりNo.183号で竜王小学校の入学児童数を60名とお伝えしましたが、正しくは67名でした。

梅雨明けが待ち焦がれる中、日増しに気温が上がり、竜王西幼稚園では、6月にプール開きが行われました。園では「プールに入ることから始め、水に慣れ、顔を水につけたり、足をバタバタできるように、少しずつでも前に泳げるようになってくれれば」と話をしてくださいました。プールで楽しく水遊びをしている園児の姿は、夏の日差しよりもキラキラした笑顔でした。



表紙

編集後記

6月に大阪北部地震で、小学校のブロック塀が倒壊し、児童が亡くなったことを受け6月議会では町内の園・学校に、危険なブロック塀はないか、質問がありました。教育委員会によると、「町内の園・学校に危険なブロック塀はないが、通学路も含めて点検していく」とのことでした。災害はいつ起こるかわからないため、一日も早く点検を行ってほしいものです。

今後も議会だよりの紙面を通して議会の取り組みをお届けいたしますので、ご感想をお寄せください。

議会広報特別委員会

委員長	内山 英作
副委員長	古株 克彦
委員	菱田 三男
委員	小西 久次
委員	若井 猛志
委員	貴多 正幸